



慢性前立腺炎

はら泌尿器科クリニック

原 浩司

男性最後の難治性疾患 慢性前立腺炎



男性のみが持つ器官である前立腺が
慢性的に炎症を起こす病気です。

前立腺炎は米国国立衛生研究所(National institute of Health: NIH)の分類
では4つのカテゴリーに分類されます。

その中のカテゴリーⅢを中心にお話を進めていきます。

カテゴリーⅢは慢性前立腺炎/慢性骨盤痛症候群と呼称されます。臨床的に
最も遭遇しますが、多くの場合、治療に難渋します。

生産活動の中核をなす比較的若い方に多く発生します。

慢性炎症の原因として、前立腺の虚血、自己免疫反応、感染、メタボリック
シンドローム、ストレス、ホルモン環境の変化、下部尿路閉塞や前立腺管内
逆流などが考えられています。しかし、その病態の解明にまでは至っていないのが現状です。

慢性前立腺炎のカテゴリーです



表 前立腺炎のNIH分類

カテゴリー		特徴
I	急性細菌性前立腺炎	細菌感染によるとされ、抗菌化学療法への適応がある
II	慢性細菌性前立腺炎	
III	慢性非細菌性前立腺炎/慢性骨盤痛症候群 III a 炎症性 III b 非炎症性	多要因性の症状症候群
IV	無症候性炎症性前立腺炎	前立腺圧出液(EPS)、前立腺マッサージ後の初尿(VB3)、精液、前立腺組織のいずれかに白血球や細菌を認めるが、無症状なものと定義され、治療への適応はない

症状について . . .

「なんとなく下腹部が重だるい、お尻が落ち着かない、集中できない。股の付け根あたりに違和感や不快感がある」といった症状で来院されます。

会陰部や下腹部、鼠径部などさまざまな部位に痛みや不快感が出現、頻尿、残尿感、射精時の痛みなど非常に多彩です。

長時間のデスクワーク（座位姿勢）、食生活（飲酒や辛い物の摂取）、性行為によって悪化したりすることがあります。精神的なストレスもきっかけになります。

これらの症状のためQOL

（Quality of life: 生活の質）が著しく低下します。

症状が多彩のために、正確に診断されず困っている、あるいは、どこの診療科に行ってもいいのかもわからない患者さんも多いです。



検査について

問診（NIH慢性前立腺炎問診票、国際前立腺症状スコア、生活習慣や職業など）、尿検査、直腸診、前立腺超音波検査、場合によりPSA（前立腺癌マーカー）採血などを行います。

しかし診断方法は確立されていないため、正確に診断されずに困っている患者さんが潜在的に多く存在することが示唆されます。

治療について

まずは生活指導を行います。症状が悪くなるきっかけがあれば、それを避けるように指導します。例えば、長時間の運転やデスクワークの禁止、頻回・多量の飲酒の禁止、辛い物の摂取の禁止、ストレス解消などです。実な薬物療法はありませんが、植物性薬剤や漢方を使用することがあります。

しかし治療法の確立もできていない現状があり、今後の研究成果が待たれるところです。





抗菌薬 投与・・・

シプロフロキサシン (SPFX)
レボフロキサシン (LVFX)
ST合剤

慢性前立腺炎に対する抗菌薬は、急性前立腺炎と同様に尿の塗抹検査や培養検査などを判断材料にして選ばれます。塗抹検査は短時間で原因菌の大まかな種類を知ることができるので、最初に用いる抗菌薬を選び出すのに役立ちます。

培養検査は原因となっている細菌を増殖させて調べます。培養検査は時間はかかるのですが、細菌の名前や抗菌薬の効果など詳しい情報が得られます。培養検査を判断材料にすることにより最も効果がある抗菌薬を選び直すことができます。

植物製剤

セルニチンポーレンエキス

(商品名セルニルトン®) は数種類の植物の花粉を材料にして作られた薬です。前立腺に炎症が起きていると前立腺はむくんだり刺激に対して過敏になったりしています。セルニルトンには前立腺の炎症を抑える効果があります。前立腺の炎症を抑えるセルニルトンには2つの効果が期待できます。

尿の出具合をよくする

肛門周囲や会陰部の痛みや違和感を抑える

セルニルトンの副作用は主に胃腸障害や胃部不快感、食欲不振などです。副作用が現れる確率は低く3%未満と報告されています。



慢性前立腺炎の漢方治療

漢方薬の中には前立腺炎に効果のある薬がいくつかあるので紹介します。

牛車腎気丸

牛車腎気丸は血液の流れを良くしたり膀胱を縮ませる神経を抑えることで、頻尿や排尿困難などの症状を改善させる効果があります。他の効果としては腰痛や浮腫などにも有効とされています。

八味地黄丸

一般的に体力がやや虚弱から中等度の場合に適するとされます。加齢に伴う腎機能の低下などにより尿が出ない場合にも尿が出すぎる場合にも有用とされるため、高齢者の泌尿器症状にもよく使われる漢方薬のひとつです。全身の倦怠感、口渇、腰痛、夜間頻尿などを伴うような症状には特に有用とされています。

